学校番号	

令和５年度　国語科

教科	国語	科目	国語演習	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	「新国語問題集アシスト　第 21 集　古文編」　（京都書房） 「新国語問題集アシスト　第 21 集　現代文編」（京都書房）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

古文・現代文の入試問題を演習する。粘り強く考え抜き、必ず自力で問題を解くこと。
主体的に問題を演習する意欲と精神力が大切。
わからなかった箇所は必ず復習し、理解して身につけること。

２　学習の到達目標

入試問題に慣れ、実践的な学力を身につけること。
１・２年生の間にインプットした知識をつかいこなせるようになること。（アウトプット）
基礎的な知識について復習・確認すること。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	どんなに長く難解な問題にも挑んでいく勇気と根気を発揮する。 間違うことを恐れず、自力で答えを出すまで考え抜くことができる。 共に学ぶ仲間と競い合い、教え合うことができる。	文章の内容を的確に読み取り、解釈・考えを自ら深め、発展させている。自分の考えを言葉で表現することができる。	出題の意図・設問の要求を注意深く正確に読み取ることができる。	論理的な根拠をもって解答する習慣を身につける。不正解だった場合も、納得できるまで考え理解を深める。 古典文法などは、くりかえし学習し使いこなせる知識として定着させる。
評価方法	・学習に対しての取り組みや態度 ・プリント	・感想・意見などの発言内容や課題プリントの内容 ・ノートの点検 ・定期考査	・学習活動における発言内容 ・ノートや課題プリントなどの提出物の内容 ・定期考査	・課題プリントなどの提出物の内容 ・定期考査 など

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	古文演習 現代文演習	中古の日記、中世の軍記物語、近世の随筆や読本 用言の活用 敬語表現 助動詞 随筆 評論 小説 幹事･語句の確認				○	古典文法・語句の用法と意味に対する理解の深まりと知識の定着。 文章の構成や段落相互の関係を読み取れる。 筆者の意見や登場人物の状況・心情をとらえ、根拠をもって解答する習慣がついている。	a:行動の観察 b:ノート、プリント等の記述の確認 c:ノート、プリント等の記述の確認 d: 小テストおよび定期テスト
2	古文演習 現代文演習	中古の作り物語、歌物語、歴史物語など 中世の説話、日記、歌論、擬古物語 近世の説話、歌論、随筆、助詞・助動詞の識別 評論 小説 随筆 幹事･語句の確認				○	実践的な古典文法問題の演習による理解の深まりと知識の定着。 入試に向けて、制限時間を厳密にし、時間配分を考慮した解き方が工夫できている。 記述問題にも主体的に取り組める。	a:行動の観察 b:ノート、プリント等の記述の確認 c:ノート、プリント等の記述の確認 d: 小テストおよび定期テスト

3	古文演習	中古、中世の作品				○	問題演習を数多くこなすことによる知識をアウトプットする力の向上。	a:行動の観察 b:ノート、プリント等の記述の確認 c:ノート、プリント等の記述の確認 d: 小テストおよび定期テスト

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。